○玉　宮

荒川鉱山の奥にあるお宮であるが、その昔、利仁将軍がこの地の敵を討つため、この宮に七日七夜籠つて、祈願したともいわれている。御神体は鉱山にふさわしく、筍の形をした石英である。このお宮にはあまたの石英が集められているが、その中に鶏卵大の白玉があり、一つを日照玉、今一つを雨ふり玉という。旱天続きのときこの雨ふり玉をかりて、池や御手洗水等に沈めて雨乞すると、いかなる晴天続きでも忽ち雨が降るという。また、長雨のときは、日照玉を神に乞いて神酒を奉り祈れば、晴天となるといわれている。宝暦（一七五一～一七六三）の棟札には「唐玉山生水寺」とかかれてある。

（荒　川）